

## 第2回 東寺方小学区エリアミーティング 開催報告

日時：2024年11月10日（日）9:30～12:30

会場：多摩市立東寺方小学校 ランチルーム

第2回エリアミーティングは、総勢30名近くでの開催となりました。来場者はほぼ全員初めてのご参加で、既存地域活動団体の方々からもご出席いただくことができました。また、協創ミーティング参加メンバーもお越しくださいました。さらに、市の協創サポーター、若手研修スタッフも同席されました。ゼミからは14名がファシリテーターを担いました。

今回は3時間にわたり、前半は市主導での「自身を知る VRT カードゲーム」を会場全員で実施しました。心理学に基づき設計された職業適性を探るツールです。最初に「興味」という視点で、次に「自信」という根拠で、個々に向いているタイプが特定されました。タイプとして、現実的領域、研究的領域、芸術的領域、社会的領域、企業的領域、慣習的領域とに分類がなされました。

会場では5つのグループに分かれてプレーされましたが、各テーブル様々なタイプでグループが構成されていることを再発見しました。異なる領域の人たちが存在することは、役割分担が適切になされることで、高度なことが実現可能になると言われています。自明かもしれませんが、プレーヤー増により、その可能性も高くなります。ゲームを通じて、参画の機会を高めていくことの大事さを実感することができました。

大学の授業では、大都市にはなぜ大きな求心力があるのか、「都市集積」という言葉を用いて説明がなされます。その理由づけの1つとして、大都市にはより多くの人がいる、すなわち、「バラエティに富む人材のもと、経済活動も自ずとより引き寄せられていく」といった議論があります。ここでも、同じことが言えそうです。では、大都市でなければそういった便益は享受できないのか。いいえ、そうとは限りません。この議論の展開についてはまたの機会に紹介いたします。

さて、後半はゼミによる主導でワークショップが実施されました。前半で得られた個々の職に対する適性をヒントに、東寺方モデルエリアという具体的な地域をテーマにしたトピックに移りました。ここでは、多様なタイプの地域人材で力を合わせて取組んでみたいことをグループ単位で絞り込みました。当日は、前述のとおり協創ミーティングメンバーの方々のご参加もあり、第1回協創ミーティングで話し合われたキーワードも豊富に出てきました。

今回は、グループの再編がなされ、ワールドカフェ形式で全グループの情報共有がなされたことから、再出する頻度が高いキーワードが主体的役割を担うこととなりました。具体的には、「既存施設・設備の利活用」や「寺子屋」といったキーワードでしたが、これに限らず、「ムクドリとの共生」、「ソーラーエネルギーと自給自足」、「子どもたちに限らない学びの場」など、参加者の皆様から独創性に富む議論を幅広くいただくことができました。

既出のワークショップは、適切なファシリテーションがなされていれば、誰でも到達することができます。ゼミ研究室では、様々な貴重なアイデアを有言実行としていくために、いつ、どこで、誰が、どういった行動を起こしていけばよいかを、比較優位や機会費用、制約条件といった経済の理論をベースに検証しています。

可視化できる成果に結びつくまでには、一定の時間がかかります。これは、不確実性の下でのリスクを最小化するためです。具体的には、地域の担い手不足解消という、私たちの心理的に敏感な到達目標のもと、慎重に物ごとを進めていくことが最も重要な点であるという背景があります。同時に、「動かさなければ始まらない」ということも然りであり、無理なく持続可能なしくみについて、協創ミーティングの場で取組を進めています。次回第3回は、エリアミーティングと協創ミーティングが1つになったミーティングを開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。（ゼミ研究室）



写真：第2回 東寺方小学区エリアミーティングの様子